



企業紹介

風の研究にヤミツキになりました

高 木 優 一*

社 名 株式会社 高木鐵工所
 社 長 名 高 木 優 一
 本社・工場 大阪府八尾市太子堂5-1-45
 (敷地面積6952平方米)
 電話0729-91-1212(代表)
 東京営業所 東京都文京区湯島1-12-6
 (高関ビル4階)
 資 本 金 2,500万円
 従 業 員 52名
 創 業 1902年2月
 会 社 設 立 1945年6月

弊社の製品販売ルートは、主として機械工具の著名商社を代理店として、全国各地の機械工具店とのネットによる全国販売であるが、ユーザーの開発製品に応じて、技術交流を必要とする場合には、特別ルートを形成することもある。近年特に弊社ブランド指定の、特別仕様（ファン、ブロワ）の受注が増加しつつあるが、これは、永年に亘る送風機メーカーとしての経験と技術力によって幾多の難問に应运ってきた信用と共に、メーカーと商社の相互信頼のもとに、信頼されるブランドとして「タカマーク」の名称を各業界に浸透せしめてきた賜物である。

弊社は電動ファン、ブロワを主力製品として今日に至っているが、この為、単にファン、ブロワの製作のみならず、当初より電動機も全工程一貫製造を自社で行って来た。そして、それぞれの送風機の性能に適合した電動機を直結し高効率のファン、ブロワとして、全国各種業界の工場設備や各種機械、機器等の附属部分的な役割も多い。

特に近年、公害防止設備、機器類、あるいは乾燥装置、乾燥機等、多数の風力応用、風力利用の分野が拡大されて来た。従って各種産業界

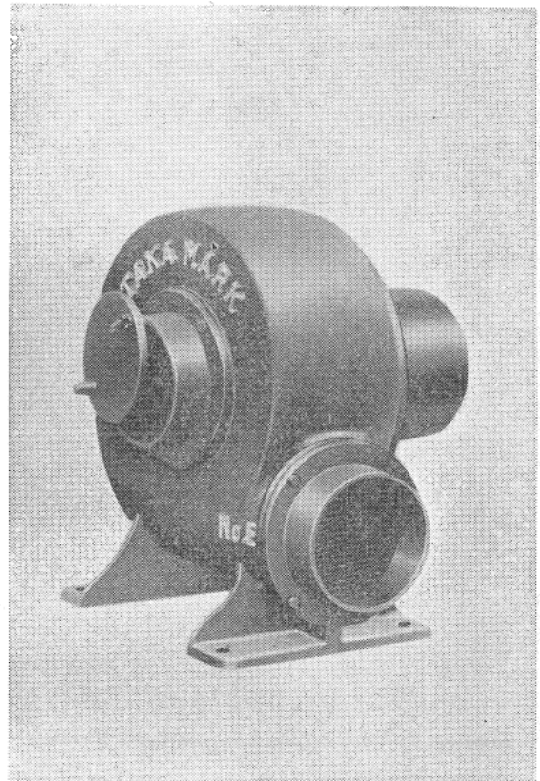


写真1 汎用型電動送排風機（エース）ACE

それぞれの開発製品に応じたファン、ブロワも必要とされ、常に新製品の開発に尽力し、ユーザーのニーズに応えるべく、鋭意、風の研究を続けている。

さて弊社の社歴であるが、明治37年(1904年)2月に私の祖父高木元吉が個人経営高木鐵工所として創業し、諸機械製作に始まり、空気機械の用途拡大を期して、送排風機の製造工場としてその専門化に入った。

昭和3年創業者死去により、私の父である、前会長、故高木金一が、これを継承し、研究を重ねて来たが昭和6年に至り、特殊電動機の製造に成功し、当時、斯界の革命的製品として電動機直結型で、しかも吸込側に実用新案特許を取得した風力調節器を取付けた電動送排風機を完成し、独得のタイプとして量産化に入った。

*高木優一 (Masaichi, TAKAGI), 株式会社高木鐵工所, 取締役社長

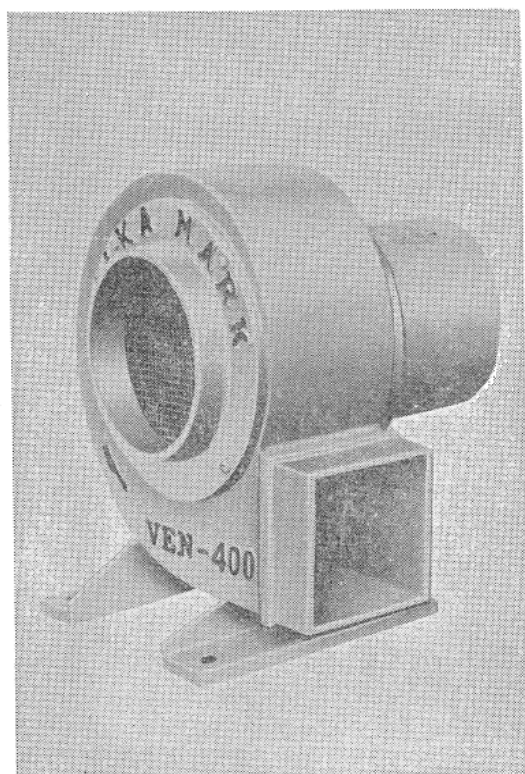


写真2-1 強力電動シロッコファン「VEN」
(ベン)

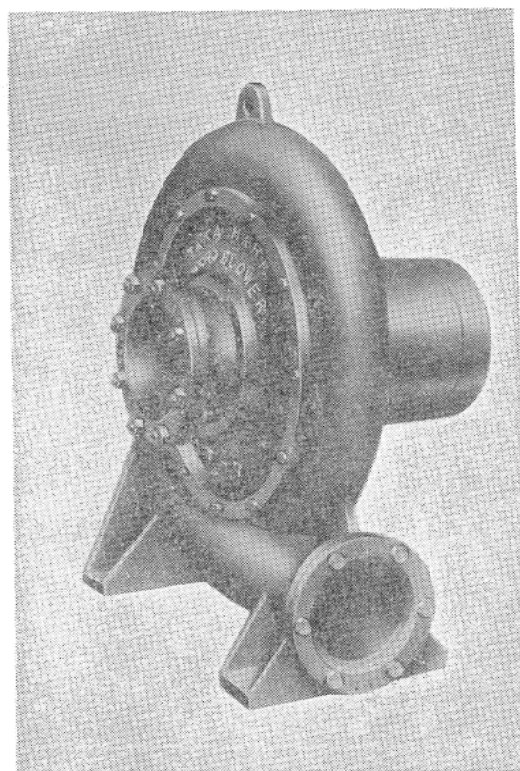


写真3 電動ターボブロワ

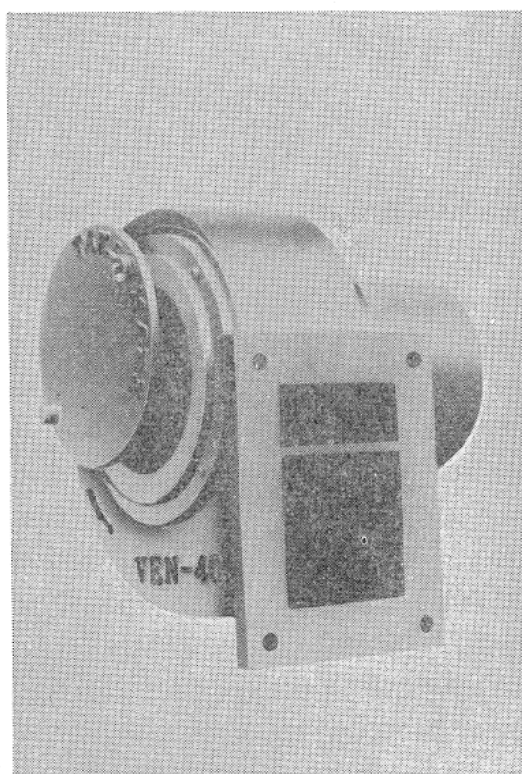


写真2-2 各種機械セット型 (一例)

弊社の製品ブランドである「TAKA MARK」「タカマーク」(高印)はこうして全国機械工具商の販売ルートにより全国的にユーザー層

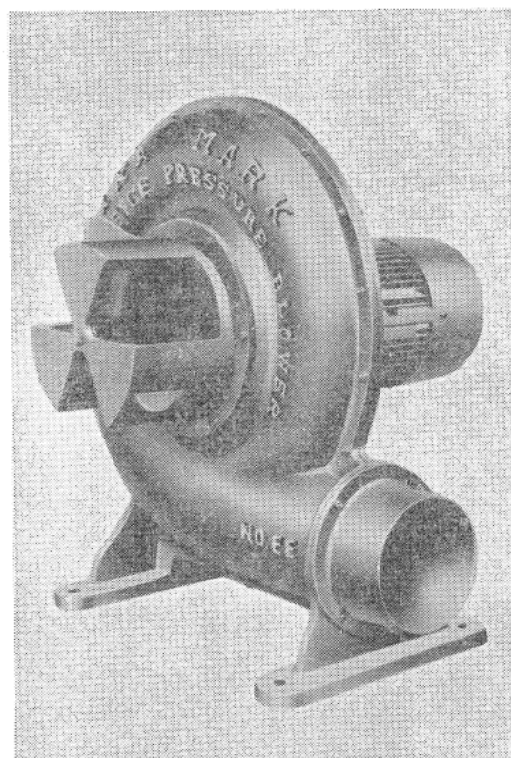


写真4 高圧型電動送排風機

に拡がり、その用途の拡大に伴って「TAKA MARK」即「送風機」の代名詞的存在になって浸透して行ったのである。同時に「ABCガイコツ印」(髑髏印)をブランドとした帯鋸用

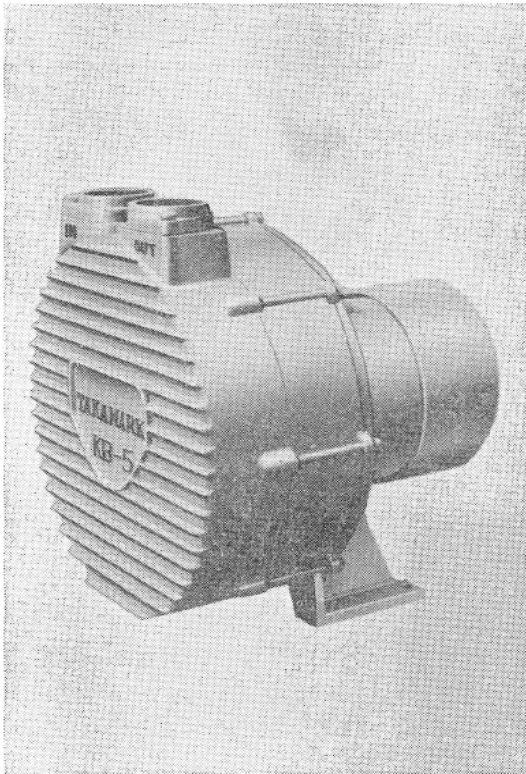


写真5 超高压電動送排風機
「クランツブロワ」

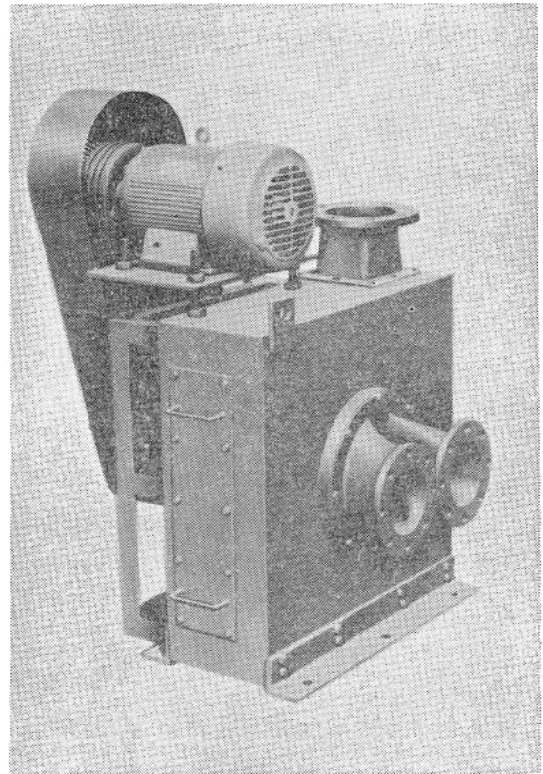


写真7 カットブロワ

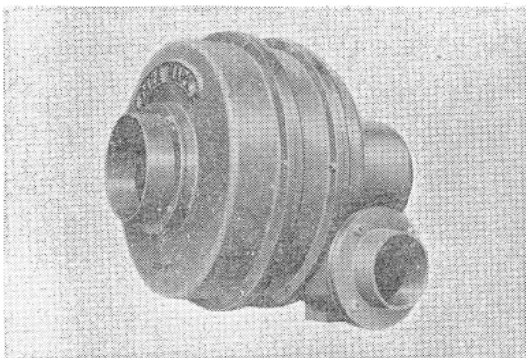


写真6 電動多段送排風機

自動目立機，帯鋸用送り器（スエージ），帯鋸用送り器（シェーパー），帯鋸用矯正機，等の製材帯鋸の加工機器類も製造し「ABCガイコッ印」は全国製材業界では，国産第一級品，そのシェア第一位として，昭和38年頃まで，製造を続けていた。この間，昭和13年より自社製電動機を利用した機械類の開発に力を入れ，「神風号」をブランドとした卓上型電動ボール盤，卓上型電動ラジアルボール盤を開発し，ボール盤業界に於ても，このブランドは広く国内は勿論のこと，海外にまで販売されていった。

昭和15年に至り現在地に工場を移転し，送風

機，ボール盤の大量生産化を計ると共に，昭和17年より当時としては画期的な製品として「神風号」集塵装置付床上型電動グラインダーを開発，集塵ブロワ内蔵型のグラインダーとしては我国最初の革命的な製品であり，送風機同様に今日の公害防止，環境改善機器の先駆者的な製品である。この様にして次々と開発された製品は常に斬新，且高技術によって各種産業界に亘り機械工具店によって広く全国販売されてきたのである。

昭和20年6月，株式会社に改組し，株式会社高木鐵工所を設立，昭和21年11月より，当時の食糧事情の状況に応えるべく研究実験を重ねた成果として生れたのが送風機の風力を循環利用した「タカマーク」電気微粉機（製粉機）でこれは新案特許を取得し，従来の販売ルートは勿論のこと，有名百貨店に於ても爆発的な売行きを示した製品であった。

送風機の用途が年々拡大の一途をたどってきた為，従来の製品の内，ボール盤及び帯鋸用，機器等を昭和37年より38年にかけて次々と製造を中止し，送風機が多機種開発と共に別の新製品の研究に尽力した。既に昭和28年にドリル刃

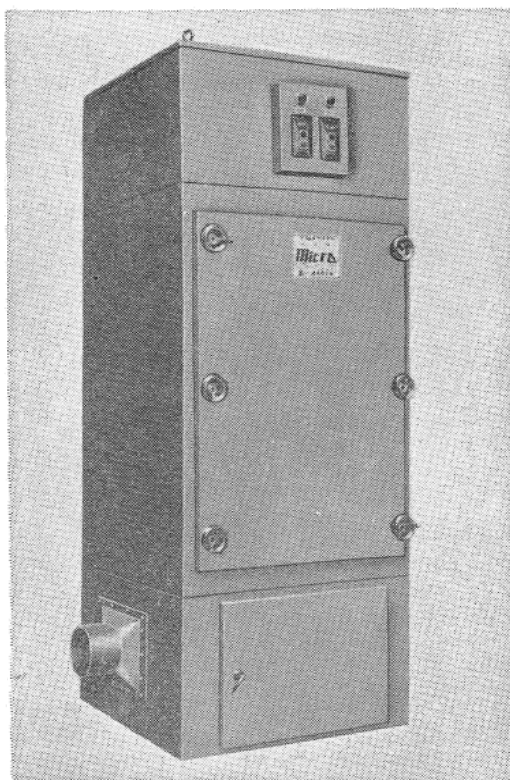


写真8 集塵機FH型 (バッグフィルター式)

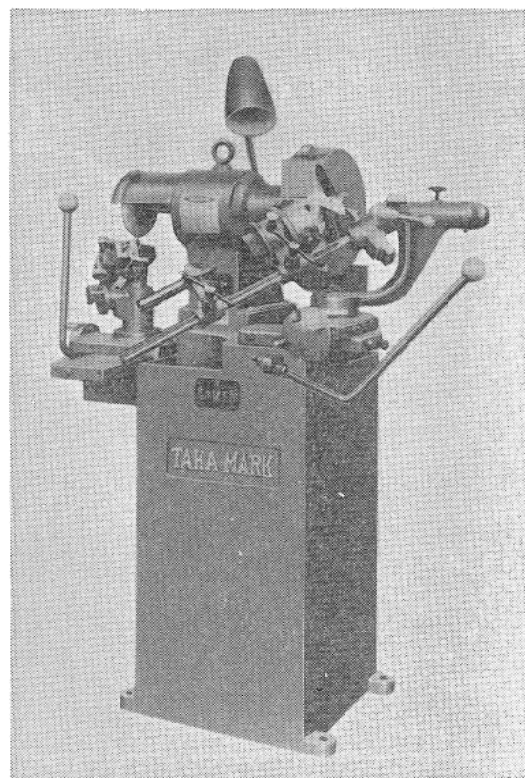


写真10 ドリル刃尖研磨機 (ドリルポインター)

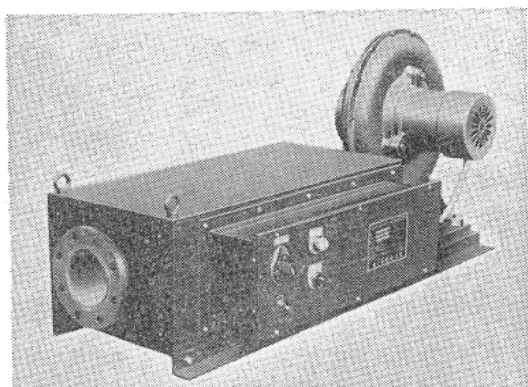


写真9 熱風発生機 (ブローヒーター)

尖研磨機 (ドリルポインター) 3機種を完成し量産化して拡販に入っていた。

当時はこの機械は全国的に於ても数社を数える程度でその販売も容易であったが、ドリルのメーカーごとにその形状 (柄等) が種々異りそれだけにその問題解決には絶えざる研究を重ねている。

又同年より電動機の大量生産化設備等、第1次生産合理化実施に着手し、自社製ダイニングマシンを始め各種の製造設備を強化増設した後昭和35年より、第2次生産合理化実施に入り、送風機の翼車製作に於けるノンリベット化、ス

ポット加工を始め、工程改善に力を入れ増々多様化してきた需要に対処する為、40年には、従来の集塵機付電動グラインダーの製造も中止して、送風機の機種拡大と各種サイズの増加に全力を傾注して、名実共に送風機の総合専門メーカーとしての態勢を企画して、着々とその実行に移してきた。

まず前年の昭和39年2月より従来の木造工場4棟を廃して鉄骨建築の総合工場建設に着手し第1期を経て続いて第2期に移り同40年3月全工場1棟の総合生産工場を完成した。この間電動ターボブロワを11KW 2P直結型まで機種を増加し、また汎用型電動送排風機の主力である0.2KW~0.75KWの新型を「エース」の名称で開発して、拡販に努めた。39年には現在も総生産台数の約半を有する強力電動シロッコファン「VEN」を開発しプラスチック機械業界他幾多の業界の要望に応じて耐熱型、特殊型等を含め大量生産に入ったのである。

昭和41年第3次生産合理化実施、製品塗装のコンベアシステムを完成し、続いて昭和42年従来の総合事務所を資材部、技術部専用として、新たに1階を総務部、営業部を主体とし、2階

を全社員収容の大会議室とした新事務所の建築にかかり昭和43年2月に完成した。

これによって販売部門、生産部門独自の集中事務処理化を計ったのである。

昭和44年より従来の鋳鉄及びアルミ合金製ケーシングを主としたブロワに加え各種鋼板製のファン・ブロワの販売を開始し、又ユーザーの要望に応じて全機種に亘り耐熱型、耐湿型、安全増防爆型、耐圧防爆型、異電圧型等の特殊電動機直結型の生産を本格化して各種業界の多目的用途に応じる開発を促進した。

昭和45年にはブロワの音響問題に取り組み送風機用サイレンサー（消音器）を開発、この販売と共にサイレンサー付のブロワも開発した。

昭和46年3月従来より使用していた社員用社宅及び社員食堂、浴場、寮、娯楽室の2棟を廃しこれらすべてを集合した鉄筋コンクリート4階建の総合福祉施設を設計し、これの新築工事に着工同年8月落成した。

昭和46年 公害防止機器の一環として集塵機「マイクラー」を開発しサイクロン内蔵型5機種、バッグフィルター内蔵型5機種の製作を開始し特にバッグフィルター式はユーラスモーターを使用した自動シェーキング装置付である。

又全機種に亘り消音機構を本体内部に施した騒音のない集塵機である。昭和48年樹脂フィルム、紙等の業界に於てスリット処理の合理化設備として、その切断と風送を同時に同一機で連続行程を行うカットブロワ「ナイファー」を開発実用新案特許を取得した。

昭和50年送風機販売上必然的に発生する配管の設計や配管工事を行う為建設業の認可を取得した。

昭和51年新製品として超高圧電動送風機「クランツブロワ」を開発した。これは環状側溝型ブロワとして始めて消音機構を内蔵した画期的な新鋭機で用途拡大の一途をたどっている。

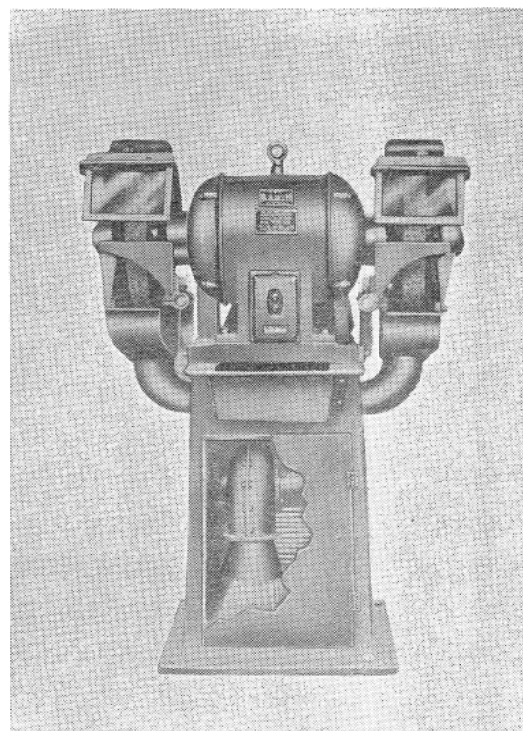


写真11 参考迄に集塵装置付電動グラインダー
(0.75KW~3.7KW 4機種)
S. 17年~S. 40年迄製造

続いて昭和52年高圧化の第2弾として電動多段送排風機の2段型、3段型を開発しクランツブロワ同様積極販売に入った。この様に常に各種業界多用化する風の利用に応じて新型機の開発に常に研究を重ねている。

昭和53年6月社長高木金一が会長となり専務の私高木優一が社長として就任した。

昭和55年会長高木金一死去。

昭和56年ユーザーの要望に応じてフィンシーズヒーターを使用した熱風発生機「ブローヒーター」を開発し、5KW~30KWを主力標準品として各種大型機や弊社独特のブロワとヒーターの用途別組替え製作等も考え、用途に応じた研究、拡販に努力をしている。

以上「風の研究ヤミツキ会社」の社歴であります。